

## 空家等に関する課題の整理について

### (1) 空家等の発生予防に向けた課題

- ・子の居住地が親から離れた場所にある場合も多く、高齢者単身世帯の増加の一因。
- ・相続や転居をきっかけに空家等となる事例が多く存在する。
- ・身体的理由や相続で複雑な権利調整により、空家等の状態の長期化に発展するおそれ。
- ・次の世代への円滑な継承のため、日ごろからの周知、啓発が必要。
- ・個々の相談に対応するため、専門家、社会福祉団体等との情報共有が重要。

### (2) 空家等の適切な管理・活用に向けた課題

- ・空家等の所有者等は売却意向が高い一方、いずれ使用するかもしれない、解体等に係る資金の工面、相続や権利関係等の人間関係などで売却が進まない。
- ・関係団体と連携・協力しながら、所有者等の意識啓発を図ることが必要。
- ・情報の提供や各種専門的な相談に応じる体制の充実が必要。
- ・不動産市場への流通促進を図る取組が必要。
- ・子育て世代の流入を促すなど地域を活性化等、空家等の新たな活用方法の検討。

### (3) 空家等の解消に向けた課題

- ・遠方に居住している等の事情により維持管理を適切に行わない事例がある。
- ・所有者等による管理責任に対する認識が希薄な状況が続くと、管理不全による安全性の低下や公衆衛生の悪化、景観の阻害等の多岐にわたる問題を生じる。
- ・これらを一元的に管理し、効果的な空家等対策を実施するために、市内の空家等の実態を把握し、データベースの整備が必要。
- ・特定空家等に対しては、空家法に基づく措置（助言・指導、勧告、命令等）を適切に実施し、解決・改善を図る必要がある。